

2020年10月11日

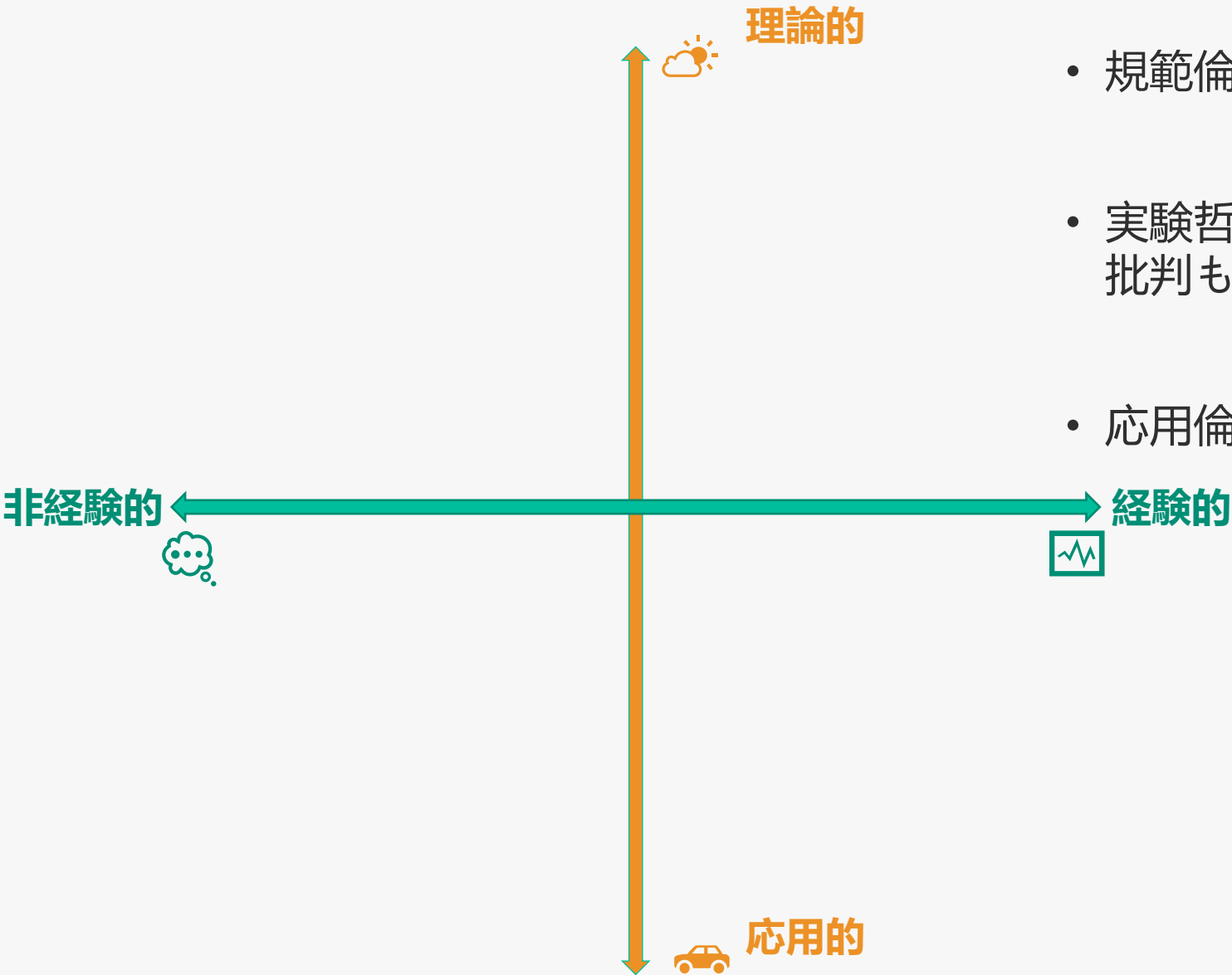
第53回 日本科学哲学会ワークショップ
「社会の中の道徳的ジレンマ」

オーガナイザー：笠木雅史（名古屋大学）

提題者：岡本慎平（広島大学），笠木雅史（名古屋大学），大庭弘継（京都大学）

資料配布サイト <https://bit.ly/34tJYWo>

規範倫理学と応用倫理学



- 規範倫理学の方法論は多様化している
- 実験哲学、道徳真理学からの規範倫理学の方法論批判も存在する
- 応用倫理学についてはどうだろうか

応用倫理学の方法論

- 応用倫理学の方法は、規範倫理学よりもさらに複雑となる
- 最も単純なモデルでも、規範倫理学の方法+現実の倫理的問題の調査方法+規範倫理学の応用方法から構成されるはずだからである
- しかし、このような単純なモデルは正しいのだろうか。規範倫理学と応用倫理学は、どの程度その方法論を共有しているのか、またすべきなのか
- 規範倫理学に対する方法論的批判を念頭に置きながら、この点を再考してみたい

トロリー問題（道徳的ジレンマ）

- トロリー問題は規範倫理学でしばしば取り上げられ、その解決・解消のための試みは、規範倫理学の方法の代表例とされる
- トロリー問題で問題となる選択の難しい状況は、現実にも存在する。事実、ロボット倫理、医療倫理、戦争倫理、環境倫理でもそういった状況は問題にされてきた
- 規範倫理学と応用倫理学におけるトロリー問題、そしてその解決の試みを比較することにより、両者の方法論の関係を考察する

スケジュール

15:40-15:45 趣旨説明

15:45-16:15 岡本慎平「トロリー問題（とその亜種）の規範倫理学における限界」

16:15-16:45 笠木雅史「自動運転のトロリー問題から考える応用倫理の方法論」

16:45-16:50 休憩

16:50-17:20 大庭弘継「トロリー問題と人道的介入」

17:20-17:55 質疑応答

研究助成

本ワークショップでの発表は、以下の研究助成を受けています

- トヨタ財団特定課題「先端技術と共創する新たな人間社会」：社会的意思決定を行うAIの要件（代表：大庭弘継）